



写真/文 青沼 豊晶

ALPS PRESS

長野県塩尻市塩尻町260番地 TEL.0263-52-1150

2011年 7月 7日

31号



JR塩尻駅の3番線・4番線ホーム北端には、ぶどう棚があります。このぶどう棚、1988年(昭和63年)に、ここ塩尻市を「ワインの里」とPRするために作られました。それ以来、地元の生産者、ワイリー、駅員さんに大切に育てられています。

7月6日、朝6時より、このぶどう棚の管理作業があり、アルプスからも3名が参加しました。内容はメルローの摘房・摘粒と、ナイアガラへの笠かけです。

約1時間後、作業は無事終了。手入れされたぶどう達は、今年も大勢の観光客や通勤通学の利用者らを見送りながら、真夏の光を浴び日々成長を続けます。



作業中



完成

◎摘房・摘粒

新梢から房を落とし、果房から粒を抜く作業。ぶどうは着果量が適正でないと成熟しません。果房、果粒が成熟するために必要な量の糖分を供給するのに1新梢につける果房の数は品種によって異なります。そのため、果房から粒を抜き、新梢から房を落とします。

◎笠かけ:

正方形に切れ目の入っている紙製の傘をステープラーで留め、病気の原因になりやすい雨から果房を守ります。

現在、桔梗ヶ原のぶどうは・・・



アルプス出荷組合・矢口氏圃場



アルプス出荷組合・塩原氏圃場



自社農園・平出圃場



自社農園・平出圃場

コンコード

ナイアガラ

メルロー

シャルドネ

順調に生育中です。